

# 市民活動センター「元気通信」

生き生きいるま 人・まち・自然

〒358-0003 埼玉県入間市豊岡 4-2-2 TEL/04-2964-2511 FAX/04-2964-2519  
Eメール/ shimin@ictv.ne.jp http://iruma-sk.c.seesaa.net/

## 市民活動センター活性化の試み

「昔のいるま写真展」を開催しました ..... 2/11(水)～3/11(水)

市民活動センターでは、市民の皆さんが気軽にセンターを訪れて、興味ある団体の活動内容やイベント情報を入手し、活動団体への参加の“きっかけ”づくりやセンターが多くの市民に利用されるための活性化施策を推進しています。

その一環として、展示企画「昔のいるま写真展」を2月11日からの一ヶ月間、一階ロビーにおいて開催しました。センターを訪れた方々は、ロビーで足を止め、懐かしい写真を興味深めに眺めていました。中には1時間以上も仲間達と写真の前で楽しそうに話をしているグループもいました。皆さん、雰囲気が変わったロビーの企画を楽しんでいるようでした。



開催中に実施した、「印象に残った写真」の投票の結果、3名の方々に賞品の写真集をお送りいたしました。

センターでは、各活動団体の皆さんの提案等も受けながら、今後ともロビーを活用した楽しい企画を実施していきますので、ご提案を窓口までお寄せください。



「デジカメ/パソコン講座」を開催しました ..... 2/21(土)午後2:00～4:00

「昔のいるま写真展」と連動し、展示期間中に初心者のための「デジカメ/パソコン講座」を行いました。講座には、定員20名を上回る応募があり大盛況でした。

当日は、自分のパソコンを持ってきた方、デジカメを持ってきた方、手ぶらできた方、と参加者はいろいろでしたが、目的は一緒であるため、講師のまちサポのスタッフの一言一句を聞き逃すまいと、真剣な眼差しで聞き入っていました。



2時間の講座でしたが、デジカメの写真をパソコンに取り込み保存することが、ほぼできるようになりました。(分からなくなったら、ご一報の上、いつでも市民活動センターに来てください。)

次回の講座、5/23(土)午後2時からご応募お待ちしております。



### 愛称募集のお知らせ

センター開館5周年を記念して、市民の皆さんに親しまれるセンターの愛称を募集中です。期間は4月末までとなっています。

詳しくはセンター窓口あるいは市民活動センターホームページまで

## 団体の底力アップ実践講座 を開催しました

あなたのスキルアップで参加者倍増!! 『行列のできる講座と思わず手に取るチラシの作り方』

第4回 <sup>め</sup>目からウロコ! 講義編 …………… 12/13(土) 午後 1:30 ~ 4:30

昨年、大好評の講座です。講師の牟田さんは、講座の企画のポイントやチラシ作りのノウハウについて、たくさんのチラシの事例を取り上げて、具体的に良い点、問題である点をわかりやすく解説していただき、参加者は身を乗り出して聞き入りました。

「行列のできる講座」にするためのポイントは、「ターゲットを徹底的にしぼること、ターゲットのココロにひびく、ゴールの見えるタイトルをつけること、最後に担当者の熱意と努力」ということで、講義編を締めくくっていただきました。(参加者 25 名)



講師：牟田静香氏



大田区男女共同参画推進センター「エセナおおた」の指定管理者をしている NPO 法人・男女共同参画おおた代表理事。「定員割れの講座、手にとってもらえないチラシは税金の無駄遣い」を合言葉に、全国で、100 回ぐらい講座を実施。講談社より「人が集まる! 行列のできる! 講座、イベントの作り方」を発刊。

### チラシ作りのコツ

- ・講座参加者にとって重要なことは、「私にとってのメリット、何が得られるのかわかること」。
- ・チラシは、A4 版タテ置きが原則。ポスターは横置きでよそとの差別化を図る。
- ・目線は左から始まるので、チラシの左上が最も大事なゴールデンスポット。右端は入れなければならぬものを小さく入れる。
- ・上 1/3 でゴールの見えるタイトルを収める。ゴールが見えないと人は来ない。
- ・重要なことは[何をやるのか……ゴールの見えるタイトル、大きな字、紙面の 1/3] [いつ……私が行ける曜日なのか] [どこで……私が行ける場所なのか/会場の住所、地図、駐車場] [無料か有料か……参加者の立場で] ・紙の表、裏を使う。裏は必要なもの、詳細な情報を載せる。

第5回 パソコン実習編 ……………  
12/20(土) 午前 10:00 ~ 午後 4:30

パソコン実習はパソコンが使える環境のある、駿大ふれあいハウスを借りて開催しました。機器数の関係で少人数が定員の講座となり、密度濃く受講できた人はとてもラッキーだったと思います。

講義編に引き続き、パソコン実習編でも牟田さんは、昨年以上にブラッシュアップした内容で、ワードアートを駆使したチラシ作りのワザを教えてくださいました。参加者はへー、ほー、ナルホド!!! と次々に繰り出されるワザの展開に感心しきり。

教えてもらったワザをパソコン上で練習して、スキルアップになったと大好評。チラシ作りにすぐに応用できるインパクトのある袋文字の作り方を習得しただけでも大変な収穫で、朝 10 時から夕方 4 時 30 分までの 5 時間半があつという間に過ぎていきました。(参加者 13 名)





## 第6回 一人より二人！こうすればみんなつながる

交流・連携力アップの方法 …………… 2/28(土) 午後 2:30～5:00

講師の庄嶋さんは、前半に交流・連携の事例や交流・連携の原則など（原則 まず、動け、仲間は後からついてくる 原則 目的なくして、交流・連携なし）について講演、後半はこの講演内容にもとづいて、参加者自ら自分達の課題を解決するために「人間を変える事業」を考えるワークショップを展開、参加者同士で目的、事業内容、どんな主体が何をするかを考えました。今後の協働事業の展開においてもとても参考になる、有意義な時間となりました。（参加者 21 名）

講師：庄嶋孝広氏



市民と行政をつなぐコーディネーター（市民社会パートナーズ代表）、市民活動家（NPO 法人おおた市民活動推進機構副代表理事）と行政職員（千葉県四街道市任期付職員・市民活動推進室）の3つの顔を持ち、市民参加、協働支援の分野で活躍。元気な人間・協働のまちづくりにもかかわりが深い。



交流・連携の3つの形態として、情報交換型（サロン型）、活動PR型（フェスタ型）、協働事業型がある。協働事業型の例として、「おおたユニバーサル駅伝大会」について紹介。様々な団体が特徴を活かした協働を行った経緯を説明。事業の成功のためには、活動のコアになる「バカ、カバ、チンドン屋」となるスタッフが欠かせない。

入間市の協働ガイドラインでは、市民と市が自分たちの知恵と工夫で住みよいまちをつくるという目的を共有し、互いの立場や特性を活かしながら、協力して取り組むことが大事。しかし、ここで注意しなければならないのは、小さな単位にならずに、幅広く協働していくことと指摘。



ワークショップでは、5名程度のグループ3つに分かれて、「人間を変える事業」を考えるワークシートをもとに意見交換。どんな人間を目指すか（目的）、その目的のためにどんな事業を行うか（事業）、その事業でどんな主体が何をするか（組織）について、それぞれが考え、グループ内でまとめて事業提案を発表。

それが考え、グループ内でまとめて事業提案を発表。

A班：食や文化を通して心豊かな暮らしができるまち・三食まつり事業、B班：気軽に助け合える安全安心のいるま・子供を中心にした農作業指導事業、C班：長生きして良かったと思える人間のまち・異世代交流地域の溜まり場事業（コミュニティビジネス）。

協働で事業を立ち上げる面白さやプロセスについて、参加者同士の認識が共有され、大いに自らの活動の参考となりました。協働による市民活動の事業が効果を上げ、地域社会にインパクトを与えていく必要があり、そのためには多くの主体が係わっていくことが大事で、各団体のメリットを意識して進めることがポイント。「みんなが結集できる事業を企画し、いろんな人を巻き込んで広げていくことが求められている」と講座の終わりにまとめられて、好評のうちに終了しました。

## 市民活動センター団体交流会(第3回)を開催しました

桜もようやく開きだしてきた3月26日。年度末の忙しい時期にもかかわらず市民活動センターの団体交流会に23団体(26名)が参加しました。



田中課長

交流会は、まちサポの木内会長の挨拶から始まり、次いで、自治文化課の田中課長より、行政との協働の形を示したガイドラインができたこと、これを今後の元気な入間の実現に向けて活用して欲しいことなどの挨拶がありました。



協働は行政との関係ばかりでなく、市民団体間の連携という形もあります。それぞれの団体が自主的に活動を展開していくときにどういった方向性を示せるのかなども問われています。交流会はそんなパートナーを知る場となっていけると良いとまちサポでは考えています。

次に、まちサポの渡部事務局長よりセンターの利用状況の報告や活動団体ガイドブック、センターに常設する団体ファイル、ロビーに常設のパソコンや展示机などについて、報告を行いました。また、自治文化課の西澤さんより、市民活動センターも今年で5周年を迎えたことから、いくつかの記念事業の計画予定についてお知らせがありました。

その後、参加団体の自己紹介がありました。

それぞれ短い持ち時間の中で熱心に活動内容の報告や活動における問題点や課題などのほか、直近のイベント等の告知をしていただきました。



最後に、市民団体として市民活動センターの活用のあり方や行政との協働の形などについて意見交換を行いました。

特に、新年度からセンターの使用登録団体による連絡会を設けてセンターのよりよい活用の方策、団体間の連携づくりなどについて参加団体で協議し、検討していく方向性を提案しました。次年度が元気な入間のまちづくりの次なるステップになるよう期待されます。

### 《福祉系団体の交流会について》

市民活動センターの団体交流会で知り合った福祉系団体は、平成19年から定期的な交流会を開催し、各団体間における事業内容の理解と相互信頼を積み重ねています。そのような中、このたび「NPO法人いきいきらふネット」の申請により、独立行政法人医療福祉機構の助成金を受け、「入間市介護・福祉マップ」を作成することが決まりました。今後、これらの団体が中心となり連携してマップが作られるそうです。市民にとって利用しやすい情報誌ができます。



## 活動団体紹介

このコーナーでは、市内で活動する団体の皆さんに登場いただき、活動内容やイベント情報の提供をしています。

### いるま健康サポート会

代表：泉田 行信 TEL 04-2963-2292  
〒358-0002 入間市東町 7-8-2

この会は健康福祉センターの健康福祉課が開催した「健康づくりマネージャー養成講座」を受講したメンバーの有志22名により結成され、05年にセンターの登録団体として活動を開始。会の目的は健康な「からだ」と「こころ」をつくるための、健康づくりのサポート(支援)活動を行い、地域に貢献することです。健康づくりに関心があっても、なかなか実行に移せない方々に体験してもらい継続していただくことです。

会発足当時は動き出すまで時間を要しました。最初に手がけたのは「100%揚がる尻づくり、尻揚げ教室」を考案者と一緒に開き、100%揚がるのが功を奏し好評でした。次の事業企画としてストレッチ教室と健康太極拳教室を「広報いるま」で参加者を募ったところストレッチ1クラス、太極拳2クラスの設置となり、現在も継続し、大きな広がりになりました。継続して行う実践型の事業は、指導する講師の経験と指導力と人間性が参加者の共感に繋がるのが重要と考えます。また参加者の声を聴き、どれだけカリキュラムに反映させることが出来るのかも大切です。

事業運営の考え方として参加費は受益者負担を原則とし参加費も手頃な額に設定しています。参加者にとって魅力ある事業は何か?内容、タイトル、PR方法を企画段階で熟慮し実行しています。

07年1月から高齢者福祉課の通所型介護予防事業の卒業生の方々を対象に、3ヶ月1クールで通所型介護予防フォロー教室(名称:わいわい探健くらぶ)を開催しました。軌道に乗り始めましたが、この事業で重要なことは支援するスタッフです。このためにボランティアスタッフを募り運営しております。

09年1月から新たな事業がスタートしました。「かろーい運動」体験教室です。3ヶ月で3種目を2回体験します。健康づくりに関心があっても、なかなか実行に移せない方々に参加していただきたいです。

会の悩みの一つは養成講座がなくなったこともあり、協力する人材が足りないことです。当然のことですが、事業が増えれば人出が必要になります。私たちは人員確保も考慮しながら少しずつでも前進し、地域社会に貢献出来るよう努力して参ります。

関心のある方は私たちの事業の現場を見に、足を運んでいただければ幸いです。



### いるま塾の会

代表 河原井 修一 TEL 04-2963-1522  
〒358-0024 入間市久保稲荷5-2-20

私達の会は、「入間市生涯学習をすすめる市民の会」が主催した「第1回市民のいるま塾」の受講生19名が、受講後このままバラバラになるのも勿体ないということで、2004年1月末「いるま塾の会」として発足いたしました。

講座で学んだことを生かし、「学び」交流「活動」という3つのコンセプトで活動を開始しました。

私達は、自分の住む街・入間を余りにも知らなすぎるという驚きを感じたため、もっと「知りたい」、「学びたい」、「交流したい」、という思いにかられ、日々の活動をしてきました。これまでの活動から、会の目的は「生き方の学びあい」にあるということを見出しました。今迄の活動は、下記の7つのカテゴリーに区分して、これらの活動は会員一人ひとりが主役となり、幹事役、司会役を務め、楽しく、をモットーに会を運営しています。

- ・地域活動:「いるま生涯学習フェスティバル」への参加、「万燈祭り」でのゴミ拾いボランティア
- ・野外研修:「名栗の杜工房」訪問、青春18きっぷを利用した「JR各駅停車の旅」
- ・講演受講:市の出前講座を利用して「介護保険制度」の勉強、近く導入される裁判員制度を学ぶための東京地裁見学と法廷体験など
- ・社会見学:「県議会聴講」「落語見物」
- ・他団体交流会:交流文化祭開催、朗読体験
- ・環境(衣・食・住):「そば打ち体験」「芋煮会」
- ・親睦会:「お花見」「学芸会」「忘年会」「新年会」など

これからも会員が、いろいろ知恵を絞り楽しく有意義な会にしたいと思えます。私達の会は、気負わず、焦らず、楽しく気軽に出席したい時に出席し自由に参加することをモットーに運営しています。

家でひとり居るだけでなく、定期的に集い、語らい行動してみませんか。



## センターからのお知らせ

### PC・インターネット環境が整いました

皆さんお気づきでしょうか。ロビー受付手前にセンター常設のPCが設置されています。インターネットも使えますので、ちょっとした調べ事にGoogleなどの検索を利用できます。また、マイクロソフト・オフィス2003も使えますので、書類作りにお役立てください。

また、館内は無線LAN環境となっていますので、館内の貸出し用PC(無線LANカード付)はどの活動室でもインターネットを利用することができます。活動団体のミーティングや講演会にご活用ください。

今後もセンターのIT環境充実を目指します。皆さまのお気づきの点やご意見をセンタースタッフまでお寄せください。



### 展示机がロビーに設置されました

センターロビー一杯に心地よい檜の香りが漂っています。これは、西川材の檜で作られた展示机4台がセンターロビーに設置されたためです。

この展示机は今後、センターの行事やイベントのお知らせ、あるいは団体による小規模なロビー展示などに活用する予定です。ちょっとした工作やパンフレットも展示できます。この展示机の面白い活用法についてのアイデアを募集します。



### 団体紹介ファイルを設置しました

センターの登録団体を紹介する手段として、新年度より団体紹介ファイルをセンターロビーに常設しました。これは、センターに訪れた市民が団体の活動状況を手軽に見られるようにする試みです。団体の方は、活動の様子を示す最新のちらしやニュースレターなどをここに収納して、活動のアピールに活用してください。



### 《市民活動団体ガイドブック平成21年版発行》

「市民活動団体ガイドブック」は、平成18年に初版が発行されました。その後、活動団体の代表や連絡先の変更、また新たな団体の設立等がありましたので、今回、平成21年版として内容も新たに改定発行いたしました。ガイドブックに紹介された団体は97団体になり、活動内容の紹介など詳細な情報が満載です。

興味のある方は、「市民活動センター」「公民館」「市役所」などに閲覧用のガイドブックを設置していますので、ご覧ください。

なお、今後の活動に必要な方は「市民活動センター」までお問い合わせください。



<http://www.machisapo.com/>

編集・発行/まちづくりサポートネット元気な人間(市民活動センター内)